

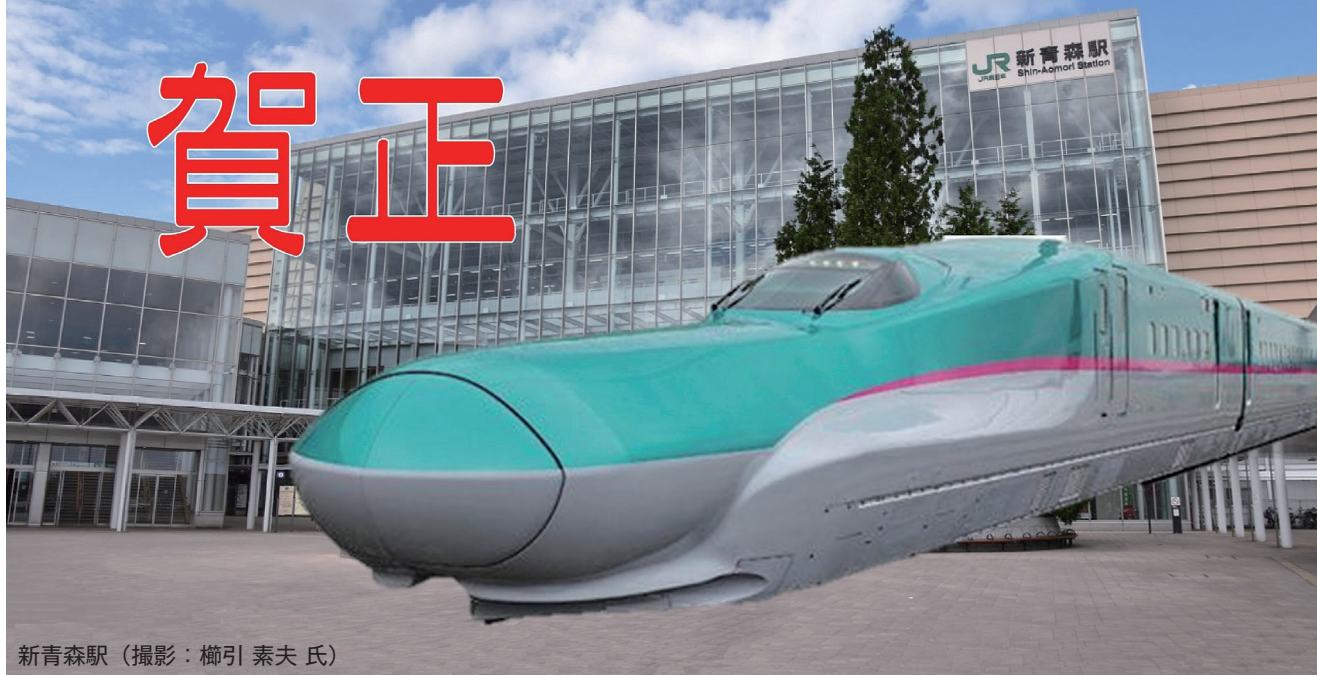


青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL <http://www.tonyamachi.com> E-mail info@tonyamachi.com 発行/2021年1月1日

祝 東北新幹線全線開業10周年

賀正



新青森駅（撮影：櫛引 素夫氏）

新年明けましておめでとうございます。



理事長

西 秀 記

2020年の国内経済は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令で経済活動が抑制され、その後も第2波、第3波の影響から極めて厳しい状況となっております。7月には県内5卸団地で構成する青森県流通団地連絡協議会でアンケート調査を実施してコロナウイルスが県内流通業に与えた影響をとりまとめ、「官民一体となったコロナウイルス感染拡大防止の推進」「中堅企業の金融円滑化の取組強化」「県をまたぐ経済交流の促進」の3項目を三村青森県知事に提言しました。

このような状況のもと、組合運営もコロナ禍により様々な影響を受けました。通常総会は感染拡大防止の観点から組合員に書面出席を依頼し、出席者は役員のみによって開催。納涼パーティーや国内経済視察会などは中止し、実施した事業も感染防止対策を講じて例年とは異なる形で行われました。

「経済的価値創出事業」では組合員跡地問題において、コロナの影響による倒産及び廃業が2件発生。その他にも3社が脱退した一方、新規加入が1社、既存組合員の買増し等が4件あり、現状を維持することができました。また、卸商業団地機能向上支援事業が採択され、卸団地再整備に向けたインフラ調査として「道路・歩道劣化調査」「交通量調査」「夜間照度調査」「共同施設劣化調査」を実施し、2年がかりで長期的な計画策定を進めております。

「社会的価値創出事業」の健康事業では、インフルエンザとコロナの同時流行が懸念されたことから、問屋町会館で実施されたインフルエンザ集団予防接種を過去最多となる1,722名が受診。また、運動不足解消を図るため昨年に引き続き開催した「問屋町100日ウォーキング」には組合員従業員132名が参加し、1日平均1万歩以上歩いた参加者が24名もあり、健康づくりに対する意識の高まりが感じられました。

「文化的価値創出事業」では、3年目となる問屋町大通りへのフラワーボックス設置、組合員への花苗やプランター配付。また、結成15年目となる「問屋町緑のボランティア隊（隊員79名）」による花苗植栽、街路樹の下枝刈り、街路樹の除草作業で問屋町の景観美化向上が図られました。

ウィズコロナ時代がしばらく続くことが予測される中、2021年の問屋町はコロナ対策を十二分に講じて各事業を進めていきます。卸団地のインフラ調査結果を受けての計画策定、組合のSDGsへの取り組み可視化や組合員への啓蒙活動、組合員に有益となるコロナ関連情報を迅速にキャッチして広報するなど組合員サポートに努めていきます。

新しい年が東京オリンピック・パラリンピックが無事に開催され、コロナによる経済停滞から脱却し、組合員各企業が更なる発展と飛躍するよう心から祈念いたします。

**問屋町ビジネススクール
2021年度カリキュラム承認
第9回理事会**

12月23日(水)に第9回理事会がホテル青森で開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また事務局からは新型コロナウイルスに関する緊急アンケート調査結果や青森公立大学での講義実施について報告した。

主な案件審議は次のとおり。案件一、問屋町ビジネススクール運営委員会からの意見について

理事会終了後には組合理事ら有志により、藤本専務理事

第2回問屋町1000日ウォーキングが終了
組合では2020年7月24日から10月31日までの1000日間、チームで歩数を競い合うコンテスト「問屋町1000日ウォーキング」を開催し、19社から44チーム、132名がエントリーした。
今回で2回目の開催となる同コンテストでは、花王(株)が提供している健康支援サービス「ホコタツチ」システムを利用して、3人1組の総歩行数を競い合った。ホコタツチ専用のポータルサイトでは、個人や企業別のランキングも公開され、参加者の歩行意欲向上に一役買った。
上位の結果は下の表のお

第2回問屋町1000日ウォーキング結果

チーム				
順位	会社名	チーム名	総歩行数	1人あたり 1日平均歩行数
優勝	㈱金竹成家	成家B	5,428,799	18,096
準優勝	㈱金竹成家	成家A	4,294,334	14,314
第3位	和田ゴム販売	優勝するぞ!	4,016,030	13,387

個人				
順位	会社名	参加者名	総歩行数	1日平均歩行数
第1位	㈱金竹成家	佐々木浩一	2,115,384	21,154
第2位	青森総合卸センター	田中 静香	1,837,389	18,374
第3位	㈱金竹成家	氣田 公志	1,813,736	18,137
第4位	青森総合卸センター	安田 真二	1,762,164	17,622
第5位	㈱金竹成家	長谷川柳春	1,736,272	17,363

**企業の防災対策などに
ついて学ぶ**
組合員屋舎会

12月3日(木)に問屋町会館2階大会議室において組合員屋舎会が開催され、組合員50名が参加した。

はじめに、NPO法人青森県防災士会青森支部の三浦支部長が「企業に必要な防災対策」について説明した。

三浦支部長は、企業は災害時に重要業務を継続するため事業継続計画(BCP)の策定に取り組みなければならぬと訴え、「計画を策定した

り、1位から10位までのチームに賞品が贈られたほか、期間中100万歩(1日平均1万歩)以上歩いた個人24名も表彰した。12月16日には表彰式が開催され、江渡労務対策委員長から上位入賞チームに表彰状が手渡された。

アンケートでは「普段の生活で気にして歩くことが増えた」「毎日の歩数目標を設定するようになった」「休みの日に意識して外出するようになった」など健康意識の高まりが感じられる感想が多数寄せられた。

の旭日双光章叙勲受章祝賀会が開かれ、受章を祝った。

らその実効性を確認し、担当者や組織全体に定着させるために、訓練・実習を実施することが重要である」と話した。

次に、青森世界文化遺産登録推進室の岡田室長が「世界文化遺産登録を目指す青森県の縄文遺跡群」をテーマに講話した。

青森県では三内丸山遺跡をはじめとする北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産登録を目指して2005年から活動を開始し、2019年の推薦が決まった。2020年9月には現地調査が行われ、現在はユネスコ内で最終審査の最中であり、順調にい

く進んでいる。今後の展望と課題として「世界遺産になった際の最大の効果は見学者の増加で、年間見学者数が登録前の3、4倍になり、影響は地域経済にも波及する。ただし、効果は未来永劫続くわけではなく、もって3年程。効果を持続させるために受け入れ態勢の再チェック、縄文遺跡以外の魅力的なコンテンツの発掘や情報発信が必要になる」と示した。

最後に、組合員の丸大堀内(株)が自社PRを行った。

同社の外崎課長は「当社を

ければ2021年6月頃に世界遺産に登録される見通しとのこと。

岡田室長は今後の展望と課題として「世界遺産になった際の最大の効果は見学者の増加で、年間見学者数が登録前の3、4倍になり、影響は地域経済にも波及する。ただし、効果は未来永劫続くわけではなく、もって3年程。効果を

持続させるために受け入れ態勢の再チェック、縄文遺跡以外の魅力的なコンテンツの発掘や情報発信が必要になる」と示した。

最後に、組合員の丸大堀内(株)が自社PRを行った。

同社の外崎課長は「当社を



上位入賞チームの代表者

業務報告

主要事項

- 12月
- 2日▽第2回税務研修会
- 3日▽組合員屋舎会
- 4日▽第44回問屋町ポウリン大会(2日目)

- 8日▽基礎から学ぶ給与計算実務(年末調整編)
- 15日▽金融審査会
- 16日▽第2回問屋町1000日ウォーキング表彰式
- 23日▽第9回理事会
- 7日▽卸商業団地機能向上支援事業第2回ウォーキング委員会
- 8日▽第11回フラワーアレンジメント教室(男女不問)
- 10日▽第44回問屋町ポウリン大会表彰式
- 15日▽金融審査会
- 16日▽第2回問屋町1000日ウォーキング表彰式
- 23日▽第9回理事会
- ▽藤本専務理事旭日双光章叙勲受章祝賀会

謹賀新年

旧年中は格別のお引き立てをたまわり厚くお礼申しあげます。本年も変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願ひ申しあげます。

青森問屋町配送(株)

代表取締役 西 秀記
常務取締役 赤坂 晃

北日本流通ヴァン(株)

代表取締役 西 秀記
取締役副社長 川崎 益美
専務取締役 藤本 和夫
常務取締役 森山 慶一

新年のメッセー

(協)青森総合卸センター事務局職員



専務理事
藤本 和夫

皆様あけましておめでとうござ
います。

昨年はコロナ禍に振り回された
一年でした。昨年の私的な主な出
来事は次のとおりでした。①1
5月に掛け念願の断捨離を
書籍は半分処分②4月、やけくそ
気味に4KTVを購入、家では映
画三昧生活となりました③7月か
ら「蒸し野菜中心食」に切替えた
結果、体調はここ10年で最高、ア
マリール(糖尿病薬)服用を最小
にできました。



理事・事務局長
赤坂 晃
青森問屋町配送係業務取締役

昨年のメッセーでは、日本各
地へ御朱印の旅に出かけたいと書
きましたが、何一つ出来なかった
一年でした。また自身の体調も思
わしくなく、病院へ通う日々が続
きました。

今年はコロナが落ち着きオリ
ンピックと一緒に盛り上げたいと
思っております。

組合員皆様の更なるご発展を心
からお祈りいたします。



業務部長
小田切 勇治

2020年東京オリンピックが
延期になったので聖火ランナーも
1年延期になりました。



業務課長
西田 一実

2020年は3月に第4子が産
まれ、11月に長女が結婚するなど
個人的にはめでたいこと続きのプ
ラスの1年でした(家族の人数的
にはプラマイゼロですが)。



総務課長
成田 賀子

昨年は『鬼』と『森』とジャ
ム作りにハマりおうち時間が増え
たせいか、身も心も丸くなりました。
今年、卸センターに来て2度目
の年女を迎え、牛飲馬食をせずに

健康に気をつけます。牛に引かれ
て善光寺参りな年になりますよう
アマビエさんお願いね。



総務課長代理
五十嵐 敦

昨年は、自分の中ではコロナ禍
が吹き飛ばすくらい、良くも悪くも
当たり前の1年となりました。



業務部主事
春山 心仁

年々時間の経つスピードが早
まっているように感じており、い
つの間にか今年で30代に突入す
ることとなりました。



総務部主幹
田中 静香

昨年は、コロナ禍にも関わらず
告をご提供いただいた組合員の皆
様方には厚く御礼申し上げます。



総務部主査
鎌田 綾野

昨年は大厄でしたが特にこれと
いった災難はなく、5月に無事に

長女を出産し育児を楽しむ毎日
でした。

今年も娘の成長を楽しみに、ゆ
るーく育児をしながら仕事も頑
張っていこうと思っておりますので、仕
事復帰した際には引き続きよろし
くお願いいたします。



総務部主事
鶴谷 優子

昨年は仕事内容が変わり文章を
書くことが多くなりました。思っ
たように書けないことで書くこと
の難しさを改めて感じました。



郵便局窓口担当
伊藤 舞

簡易郵便局の担当になり約1
年半が経ち、ようやく郵便局業
務に慣れてきたと感じています。



総務部書記
葛西 友紀

昨年4月から入社いたしました
葛西と申します。



問屋町ストアパート
成田 あすか

昨年は新型コロナウイルス蔓延
による自粛で旅行にも行けず、さ
ぞストレスが溜まるかと思いき
や、元々インドア派なので苦も無
く過ごしてました。



問屋町ストアパート
門間 由紀子

昨年は想定外のコロナ禍で何か
と不便が続きました。その中で
楽しみが家でのBBQでした。



青森問屋町配送係業務部長
佐藤 博善

昨年はコロナウイルスの大流行
に尽きると思います。すべてのイ
ベント・祭り・スポーツ大会等の
中止や制限付きの開催。私自身、
ねぶた祭りの中止が、1番残念で
した。しかし、ワクチン開発の報
道を見ると、まだまだ収束はしま
せんが段々良くなっていくのか
と期待しています。

今年、こんな事が二度と起こ
らないように祈ると共に、昨年中
止となったすべてのイベント等が
開催され、大成功で終わるよう
に願う事と、経済が元通りに戻る事
を願うばかりです。

2021年 コロナ禍に負けない、 持続可能な団地運営を目指す

新型コロナウイルス対策 ウイズコロナを見据えて



組合員へマスク・消毒液配付

中国武漢市に端を発した新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に全世界に拡がり猛威を振るっている。2020年3月11日にWHO（世界保健機構）がパンデミックを宣言し、日本でも4月16日に全国に向けて緊急事態宣言が発出された。緊急事態宣言は5月25日に解除されたものの12月17日現在、国内の感染者数は18万7千人まで増加しており感染は拡大傾向が続いている。県内では383人と全国的に見て感染者数は少ないが各地でクラスターも発生しており予断を許さない状況となっている。

このような状況の中、組合でも不足していたマスクや消毒液を2度に渡り配付したほか、こまめな情報発信により組合員支援を続けている。加えて2020年3月、5月、11月の計3回、新型コロナウイルスに関する緊急アンケート調査を実施。7月

このような状況の中、組合でも不足していたマスクや消毒液を2度に渡り配付したほか、こまめな情報発信により組合員支援を続けている。加えて2020年3月、5月、11月の計3回、新型コロナウイルスに関する緊急アンケート調査を実施。7月

商団連支援事業 卸団地再整備に向け インフラ等を調査

また、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する新しい生活様式に対応するため、問屋町会館にはサーモグラフィシステムや消毒液自動噴霧器、網戸を設置した。アクリルパーテーションやベルトパーテーションなどの備品も青森県の補助金を活用して準備し、コロナ禍でも従来と同程度の事業を実施できるような体制を整えた。

2020年度から2021年度までの2年間の事業として、全国卸商業団地協同組合連合会（商団連）の卸商業団地機能向上支援事業に取り組んでいる。機能向上支援事業は、商団連が独立行政法人中小企業基盤整備機構の委託を受けて実施するもので、卸商業団地における団地再整備や共同事業強化事業に対する調査研究等を支援し、対象経費の80%が助成される。

2020年度から2021年度までの2年間の事業として、全国卸商業団地協同組合連合会（商団連）の卸商業団地機能向上支援事業に取り組んでいる。機能向上支援事業は、商団連が独立行政法人中小企業基盤整備機構の委託を受けて実施するもので、卸商業団地における団地再整備や共同事業強化事業に対する調査研究等を支援し、対象経費の80%が助成される。

SDGs 持続可能な社会を目指して



夜間照度調査

問屋町地区は昭和42年、第二問屋町地区は昭和59年に完成しておりインフラの経年劣化が進んでいる。当事業を活用した調査業務の実施により、これまで漠然としていたインフラ等の状況を客観的に把握・見える化すること、より具体的な対応策の検討を進める。調査結果は報告書にまとめられ、報告会等により組合員に説明する。

SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに国、自治体、企業、団体などあらゆる主体が関わって解決していくべき国際目標のこと。気候変動や格差など幅広い課題の解決を目指す

SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに国、自治体、企業、団体などあらゆる主体が関わって解決していくべき国際目標のこと。気候変動や格差など幅広い課題の解決を目指す

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGs 17のゴール

3つの価値創出事業で ビジネスパークへ



フラワーボックスに組合員が水やり

将来的に渡ってこの地域・故郷を守るため変革していくことである。2021年度は推進委員会の検討結果を踏まえ、組合員に対するSDGsの啓蒙活動やSDGsの見える化等を行い、これまで以上に地域との共有価値の創出を目指す。

SDGsへ取り組むことは、将来に渡ってこの地域・故郷を守るため変革していくことである。2021年度は推進委員会の検討結果を踏まえ、組合員に対するSDGsの啓蒙活動やSDGsの見える化等を行い、これまで以上に地域との共有価値の創出を目指す。

当組合は、「経済的価値」「社会的価値」「文化的価値」の3つの価値創出事業のトライアングルで卸団地のエリアマネジメントを行っている。先述のSDGsのみならず、少子高齢化、働き方改革など、時代の流れや組合員ニーズの変化に積極的に対応してエリアの価値を高めるとともに、事業の見える化を図り、組合事業への理解と一体感の醸成にも努めたい。

経済的価値創出事業では、若者の地元定着にもつながる共同求人事業を県内の卸団地と連携して取り組む。

社会的価値創出事業では、問屋町内交通死亡事故ゼロ99日達成を目指した活動が続けるほか、コロナ禍でより注目度が増している健康事業の推進で組合員従業員の健康増進を促す。文化的価値創出事業では、地域中小企業の人づくりを支援している問屋町ビジネススクールが開校10周年を迎えることから、これを記念した特別講演会を開催するほか、問屋町内の景観づくりに組合員の協力のもと取り組むたい。